

古ふる池いけや
古ふる池いけや

蛙かわずとびこむ
蛙かわずとびこむ

水みづの音おと
水みづの音おと

(作者)

松尾芭蕉。寛永二十一年（一六四四）〜元禄七年（一六九四）。

(通釈)

草庵のかたわらにある古池。遅々とした静かな春の日中、蛙がその古池に飛び込む音が静寂を

破り聞こえてくる。（季語は蛙、仲春）

(参考)

漢詩や和歌では「鳴蛙」「鳴く蛙」として詠まれてきたが、そうした伝統的表現を水に飛び込む音によつて新たな句境を切り開いた作。